HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	中国語における日本語借用語の流入と受容 ： 「服務」という言葉を中心に
Author(s)	胡, 琪
Citation	研究論集, 13, 241(左)-250(左)
Issue Date	2013-12-20
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/54072
Type	departmental bulletin paper
File Information	013_HU.pdf

Hokkaido University Collection of Scholarly and Academic Papers : HUSCAP

中国語における日本語借用語の流入と受容

――「服務」という言葉を中心に――

胡　琪

要　旨

「為人民服務」は中国語でよく使われているフレーズとして，広く知られているが，このフレーズにある「服務」という言葉が日本語から中国語に流入した言葉，いわゆる日本語借用語であることは，あまり知られていないであろう。

「服務」の語源を遡ってみると，高名凱・劉正埮『現代漢語外来詞研究』（1958．文字改革出版者）では，「服務」は日本語からの借用語とされている。その後に出版された高名凱・劉正埮『漢語外来詞詞典』（1984．上海辞書出版社）でも，「服務」を日本語起源のものと明記している[1]。しかし，日中両言語における「服務」の使用状況をみると，日本語ではあまり使用されていないのに対し，中国語では HSK の甲級語彙[2] に収録され，頻繁に使用されている。日本で造られた「服務」は日中両言語で異なる展開を遂げたのは何故であろう。筆者はかつて日本語における「服務」という言葉の出現とその背景について考察を行ったことがある（胡．2013）。本稿はそれの続きとして，中国語における「服務」という言葉の流入と受容の実態を解明する。

1．先行研究

『現代漢語外来詞研究』は日本語借用語 459 語を 3 種類に分けてリストアップした。この 3 種類は「日本語固有語からきたもの」，「古典中国語からきたもの（日本人により新たな意味が

1　『漢語外来詞詞典』1984．上海辞書出版社：p.108.

2　HSK とは世界で約 20 の国々や地域で実施されている中国語能力認定試験のことである。HSK の甲級語彙は初級中国語を把握するための最も基礎的な語彙である。

付与されている)」と「近代訳語からきたもの」である。「服務」という言葉は「日本語固有語からきたもの」の分類に挙げられている。

『漢語外来詞詞典』は『現代漢語外来詞研究』をもとにして，補充して編集されたものである。「服務」という言葉を日本語起源のものと明記している。

また，拙稿「「服務」という言葉の出現とその背景── 日本資料を中心に ──」では，日本語における「服務」という言葉の出現とその背景について考察を行った。「服務」は明治期になってから現れた言葉である。「服務」に関する最初の記載は日本最初の軍事用語対訳辞書『五国対照兵語字書』にある。「服務」が軍事関連書に頻繁に使われているうちに，徐々に一般化され，「職務に服する」という意味が生じてきた。但し，初出の時から今までにおける「服務」の用例をみると，「服務」は軍事や法律の公文書に使用される専門用語で，日常ではあまり使われていない。

以上から，「服務」は日本で造られた言葉ということが認められるが，この言葉はいつ，どのように中国語に流入したかについては，まだ明解されていない。「服務」の流入について調べるために，一つの手がかりとしては，時代順で語の源流を反映している『漢語大詞典』で調べることである。

『漢語大詞典』は全 12 巻で，37 万あまりの見出し語を収録し，5000 万字に達した最も権威のある漢語辞書の一つである。編輯委員会と編纂管理処は厳格な編集手順を設け，特に，例文の引用について，詳細な規定を設けた。一般的には，一つの語釈に例文を年代順に三つ並べる。例文を選別する際に，最初の例文として，できるだけ最も古いものを採用する[3]。『漢語大詞典』に，「服務」は，次のように記されている。

【服务】 ①为社会或他人利益办事。孙中山《民权主义》第三讲：“人人应該以服务为目的，不当以夺取为目的。”沙丁《还乡记》九：“随时都想给人一种印象：他是为人民服务的！”

②犹任职。朱自清《回来杂记》：“回到北平来，回到原来服务的学校里，好些老工友见了面用地道的北平话道：‘您回来啦！’”邹韬奋《患难馀生记》第二章：“后来他在上海《商报》，我也在上海《时事新报》服务，算是报界同人。”[4]

『漢語大詞典』における「服務」の解釈や例文を読むと，最も古いものは孫中山（孫文）の『民権主義』に見られる。『民権主義』は孫文の代表作『三民主義』の一部で，1924 年に完成したものである。孫文は 19 世紀の末から 20 世紀の始めにかけて日本に在留したことが 2 回あ

[3] 「『漢語大詞典』的例句運用」王安全，『辞書研究』6 月号（1986） pp.48-50

[4] 『漢語大詞典』第六巻　p.1202

る[5]。胡（2013）によると，「服務」は1880年代に現れた直後に，軍事書物や新聞に頻繁に使用されていた。日本に在留している間に，孫は書物や新聞で「服務」という言葉を目にした可能性が高いと思われる。ただし，中国における日本語研究・日本語学習は清末から始まると言われているので[6]，孫の『民権主義』より古い用例が出てくる可能性も考えられる。そこで，清末民初の書物や辞書などに，「服務」の使用例と，その流入に関する詳しい情報を調査する。

2. 軍事書の訳本と「服務」の流入

本節では，清末民初の書物や辞書などを中心に，「服務」の使用例と，その流入に関する詳しい情報を調査する。清末民初の書物の調査では，主に清の白話小説や，中国国家図書館に所蔵する民国時期の定期刊行物，図書，公文書などを調査対象にする。辞書の調査では，『新爾雅』（汪栄宝，葉瀾 1903），『漢訳新法律詞典』（徐用錫 1904），『中華大字典』（徐元誥 1915），『学生字典』（陸爾奎 1915），『国文成語辞典』（莊適 1916），『国音普通字典』（編者不詳 1921）といった対訳辞書，国語辞書を調査する。

調査した結果，最初に「服務」という言葉を使用したのは，1914 年出版の日本書物の訳本『見習軍官脩養』である。『見習軍官脩養』は帰帆子編の日本の軍事書『見習士官之修養』（1908）を翻訳底本にして，徐夢成・周縄武によって翻訳されたものである。底本となる『見習士官之修養』は作者帰帆子が陸軍士官学校を卒業した後に，学校での所見を摘記したものであり，1908 年に東京厚生堂によって出版したものである。『見習軍官脩養』の第一編第二章のタイトルのところには「服務上之注意」と記されている。翻訳底本『見習士官之修養』と対照してみると，「服務上之注意」は翻訳底本の「服務上ノ注意」の直訳である。ここの「服務」は「服役する」という意味で使用されている。本書における「服務」の用例は，本研究で調査した清末民初の文献の中で，「服務」という言葉が現れた最初の用例になっている。

『見習軍官脩養』はどのように中国に流入し，訳者徐夢成らの手元に入ったかについては，不明であるが，清末，日本に派遣された留学生が日本から持ち込んだ可能性が高いと思われる。清政府は 19 世紀の末から日本の士官学校に留学生を派遣していた。この派遣は民国までも続けられ，合計 29 期，1600 人あまりの中国人留学生が日本に赴いて，士官学校で勉強した。中国人留学生の誰かが当時の士官学校の数多くの軍事書の中から，『見習士官之修養』を見つけたのではないかと推測する。

なお，訳者徐夢成，周縄武は，二人とも中国福建省の出身で，主に日本の軍事書の翻訳仕事

---

[5] 孫文は 2 回留学に日本へ行った。1 回目は 1887 年から 1911 年にかけての 5 年間，日本に在留していた。2 回目は 1913 年から 1916 年にかけての 4 年間，日本に在留していた。

[6] 『中国人の日本語学習史―清末の東文学堂―』劉建雲　p.13

に携わっている。徐夢成は『見習士官之修養』のほか，『改正野戦砲兵操典詳解』（日本軍事研究会 1910），『新兵馬術教育必携』（斉藤久輔 1908）などの日本の軍事書を翻訳した。周縄武は『軍隊服務要覧』（渥美勧八 1907）を翻訳した。

要するに，『漢語大詞典』の記述による「服務」という言葉に関する用例は孫文の『民権主義』に出たものであるが，筆者の調査で，「服務」は『民権主義』の前に，既に使われたことが分かる。すなわち，1914 年出版の日本の書物の訳本『見習軍官脩養』に，「服務上之注意」という形で使われていた。

3. 中国語における「服務」の受容

3.1　民国時期における「服務」の使用

「服務」という言葉は中国語に流入したのち，いかなる発展を遂げて，中国語の常用語になったか。この問題を解明するために，まず，民国時期における「服務」の使用状況を見てみよう。

民国時期における「服務」の使用を調査するために，中国国家図書館所蔵の民国出版物を中心に，書名や目次などに「服務」を使用しているものを検索したところ，432 件見つかった。その中の年代不明なもの 27 件を除き，用例を 405 件得た。各年代における「服務」の使用状況を図 1 にまとめておく。

図 1 に示したように，1910 年代から 1920 年代までの間に，「服務」の用例が少なかったが，1930 年代になると，用例が急増し，229 件に上った。1940 年代には，使用例の数が減り，138 件に下がった。

前節に示したように，「服務」は 1914 年に，日本の書物の訳本『見習軍官脩養』に現れた。そこで，1910 年代から 1920 年までの間に，用例が少なかったのは，新語で，現れたばかりだからであろう。

そして，1930 年代，「服務」の用例が急増したのは，さまざまな理由が考えられるが，その

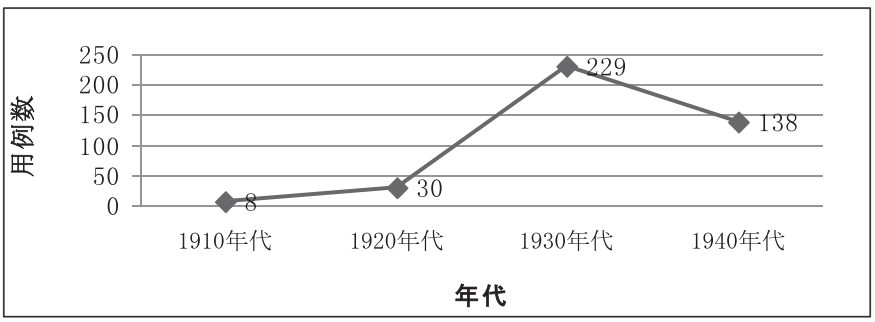

図 1　民国出版物における「服務」の使用

中，孫文の使用との関わりは最も大きいと思われる。1916 年，日本から上海に戻ってきた中国の革命家孫文は，帝政復活を宣言し，皇帝に即位した袁世凱を討伐するため，1916 年 5 月 9 日の『民国日報』に『討袁宣言』という文章を発表した。文章の中に，孫は野望を抱いている袁世凱を批判し，討伐の意志を表した。その文章の後半に「服務」が次のように，用いられている。

⑴　民國元首只有服務負責之可言而非有安富尊榮之可慕國民當共喻斯義[7]

用例⑴における「服務」は日本語の元の意味「服役する，仕事に従事する」より，「奉仕する」という意味のほうがふさわしいと思われる。さきに触れたとおり，孫は 19 世紀の末から 20 世紀の始めにかけて，2 回日本に在留した。そして，それはちょうど軍事書物や新聞に「服務」を頻繁に使用していた時期であった。日本にいた孫は「服務」という言葉を目にした可能性があると思われる。その後，孫の著作にも，「服務」の使用が見られる。

⑵　會長之義務　會長為全體之公僕，非為一部分或一人而服務，是故彼雖為一會之長，而非一會之主人翁也[8]。

⑶　人人應該以服務為目的不當以奪取為目的[9]

例⑵，⑶をみると，孫の文章における「服務」は主に「社会や他人にために働く，奉仕する」という意味で使われていることがわかる。用例⑵は孫文の『建国方略』に出たものであるが，『建国方略』には，「服務」の用例が用例⑵のほかに数例もある。用例⑶は孫の代表作『三民主義』に出たものである。当時，孫は「三民主義」を周知させるように，7 ヶ月間，16 回にわたって中国の各地で講演を行った。このきっかけで，「服務」という言葉も軍事書の訳語から一般化し，その意味も「服役する」の意味から「社会や他人のために働く，奉仕する」の意味に変わった。また，下に示したように，「服務」という言葉は使われているうちに，一般化され，論文・小説・随筆など様々なジャンルにも見られるようになり，しだいに中国語に定着するようになっていく。

---

[7] 「討袁宣言」（1916）『孫中山全集』第二巻　p.283

[8] 「建国方略之三　民権初歩（社会建設）」（1917-1919）『孫中山全集』第六巻　p.425

[9] 「三民主義・民権主義」（1924）『孫中山全集』第九巻　p.299

(4)　軍隊退伍後一律改為工人，同時修築全國道路，工竣後再分別服務於鐵路水利兩工程。[10]

(5)　小兄弟勤勞堪服務，老夫婦儉樸得成家。[11]

(6)　是則華僑機師回國服務意義之重大，吾人豈可不三熏三沐以歡迎之耶！[12]

3.2　1949 年以降における「服務」の使用

民国時代に，「服務」という言葉は，革命指導者の孫文が用いたことで，一般化され，様々なジャンルで使用されるようになり，中国語に定着した。当時の「服務」は，よく「社会や他人のために働く，奉仕する」という意味で使われていた。それでは，中国語に使われている「サービス」という意味はいつ，どのように生みだされたのか。本節はこの問題を解明するために，1949 年以降における「服務」の使用を調査した。

調査資料は 1949 年から 2000 年までの『人民日報』のデータである。刊行されている記事の中に，タイトルに「服務」の使っている用例を検索したところ，「服務」は 1949 年以降に，非常に高い頻度で，新聞に載られていることがわかる。その使用状況を比較するために，同じ軍事分野の日本語借用語「動員」・「命令」の使用状況も調べた。その二語の使用状況を服務の使用状況と一緒に比較しながら，図 2 にまとめてみた。

図 2 から分かるように，「服務」の使用例数は上昇する傾向にある。各年代の使用をみると，1950 年代から，1970 年代までの 30 年間にあまり変動がないが，1980 年代になると，使用例

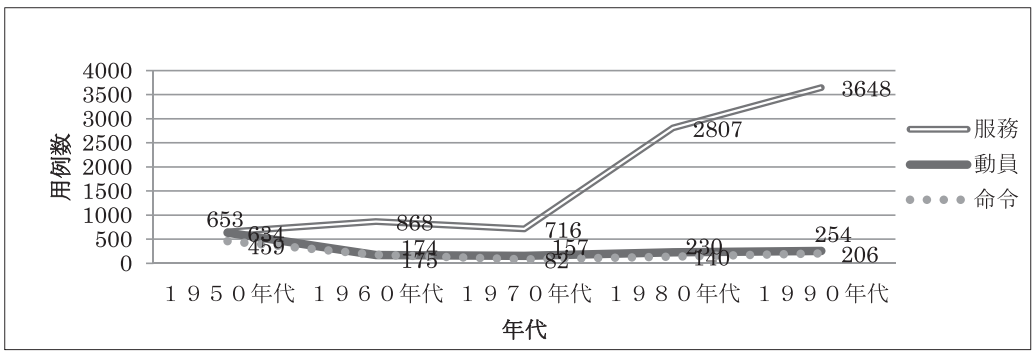

図 2　1949 年以降における「服務」・「動員」・「命令」の使用[13]

[10] 『兵工問題』陸世益（1925） p.49
[11] 『父子英雄伝』章石承（1935） p.1
[12] 『若定廬随筆』陳孝威（1938） p.195
[13] 1950 年代のデータに，1949 年のデータも含める。

数が前年代の 4 倍近くになり，急激に増加した。この傾向も，1990 年代まで続いている。

また，同じ軍事用語からの日本語借用語「動員」·「命令」と比べると，「服務」の用例数は「動員」·「命令」のを大きく上回っている。すなわち，「服務」の使用頻度は「動員」·「命令」より高い。変動の幅からみると，「動員」·「命令」はあまり変動せず，安定しているのに対して，「服務」は 1980 年代に急増したことが分かる。

それでは，「服務」の具体的な用例はどのようなものか，用例数の急増する前の段階と，急増した後の段階は，それぞれどのような特徴を持っているか。まず，1970 年代までの用例を見てみよう。

⑺ 今天是到了同學們用實際行動去爲人民服務的時候了。[14]

⑻ 工商業者要堅決靠攏黨，努力自我改造，一心一意爲社會主義服務。[15]

⑼ 福建省商業部門認真爲農業生産服務，做好供應工作，支援春耕生産。[16]

上記の三つの用例における「服務」はいずれも「為～服務」の形で使用されている。1950 年代から 1970 年代までの 30 年間における「服務」の用例の中で，このような形で使用されるものが多数を占めている。この言い方の由来を探ってみると，当時の指導者毛沢東と大きく関わっていることがわかる。

1944 年，毛沢東は警備員張思徳を追懐するために，『為人民服務』[17] という文章を書き，大衆のために奉仕する行為を褒め称えた。毛はこの文章に，孫文と同じように，「服務」を「社会や他人のために働く，奉仕する」という意味で使用した。その後，毛はほかの著作にも「服務」を頻繁に使用した。

⑽ 因爲我們是爲人民服務的，所以，我們如果有缺點，就不怕別人批評指出。[18]

---

[14] 『人民日報』1949 年 6 月 25 日

[15] 『人民日報』1960 年 4 月 15 日

[16] 『人民日報』1973 年 2 月 12 日

[17] 『為人民服務』は 1945 年 4 月 24 日に発表されたものである。当初，文章のタイトルは『為人民的利益而死，是死有重于泰山』であったが，その後，『為人民服務』に変えられた。

[18] 「為人民服務」1944，『毛沢東集』第九巻　p.111

⑾　全心全意地爲人民服務，一刻也不脱離群衆；一切從人民的利益出發，而不是從個人或小集團的利益出發；嚮人民負責和嚮黨的領導機關負責的一至性；這些就是我們的出發點。[19]

⑿　我們應該謙虚，謹慎，戒驕，戒躁，全心全意地爲人民服務。[20]

上記のように，毛は自分の著作に，「為人民服務」という言い回しを頻繁的に使用した。その後，「為人民服務」は中国共産党の宗旨になり[21]，今に至るまでも，党内に徹底的に実行されている。1949 年に，中華人民共和国が建国して以来，「為人民服務」はスローガンになったり，マスコミに報道されたりしていた。さらに，1944 に書いた『為人民服務』の文章は小学校の教科書にも収録されるようになった。この一連のことによって，「服務」は知らない人のいないほど中国全土に広がり，中国語に根を下ろした。

次に，1980 年代から 1990 年代までの 20 年間における「服務」の使用状況を見てみよう。図 2 のように，1980 年代に，「服務」の使用例が激しく増加し，その傾向は 1990 年代まで続けられている。この 20 年間の「服務」の使用例を分析してみると，「服務」は第三次産業の働きぶりを指していることが多い。このような現象は 1979 年に行われた「改革開放」という国策に関わりがあると思われる。

1979 年，鄧小平は中国に「対内改革，対外開放」，略して「改革開放」という政策を提言した。1949 年から実行していた計画経済を，市場経済に変え，第一次産業と，第二次産業を発展させると同時に，小売業，サービス業などの第三次産業も発展させようとしていた。マスコミはこの政策に応え，力を入れて宣伝した。

⒀　陝西省政協常務委員，畫家方濟衆對我店服務態度和服務質量提出的批評意見是正確的，我們誠懇接受。[22]

⒁　美菱集團把 1995 年定爲企業管理年，舉行這次活動旨在強化售後服務，進一步提高企業管理水平。[23]

上記の 2 例から分かるように，マスコミの宣伝の中で，「服務」は意味が変わり，第三次産業の働きぶり，所謂「サービス」を指すようになった。新たな意味を付与された「服務」は新

[19] 「論聯合政府」1945，『毛沢東集』第九巻　p.183
[20] 「両個中国之命運」1945，『毛沢東集』第九巻　p.213
[21] 「為人民服務」は 1945 年に党規約に収録された。
[22] 『人民日報』1982 年 1 月 20 日，参照
[23] 『人民日報』1995 年 3 月 27 日，参照

間によって，再び中国全土に普及した。

さらに，1980年代から1990年代までの用例の中に，上記の用例に出ている「服務態度」，「售後服務」のような，「服務＋～」，或いは「～＋服務」のパターンの複合語も数多く現れている。特に，「～＋服務」のパターンの複合語は1970年代の末に現れてから，非常に高い頻度で使用されるようになり，1980年代における「服務」の使用例の急増させた原因の一つとも考えられる。このパターンの「服務」は「サービス」の意味で，名詞，動詞，連語の後ろに付き，サービスの具体的な内容を表す。例えば「電話服務」（コールサービス），「咨詢服務」（案内サービス），「售後服務」（アフタサービス），「一条龍服務」（タイアップサービス）など。1979年に，「改革開放」の政策で，計画経済を市場経済に転換し，第三次産業，特にサービス業は急速に発展し，新興の事業も次々と現れる。新しい事物には，それに対応する名称が求められているから，「サービス」の意味を持っている「服務」は，新興のサービス業の名づけに重要な役割を果たしている。現在，「服務」はHSKの甲級語彙に収録されたことからもわかるように，日常生活に欠かすことのできない常用語になっている。

おわりに

ここまで，中国語における日本語借用語「服務」の受容について調査した。「服務」は「軍務に服する」という意味で，日本の軍事書『見習仕官之修養』の翻訳によって，中国語に流入した。流入したときはあまり使用されていなかったが，1920年代に，孫文が用いたことで，「社会や他人のために働く，奉仕する」という意味で，世間に知られた。その後，毛沢東は自分の文章に「服務」を「為人民服務」の言い回しで，さかんに使用していた。毛の使用によって，「服務」は二度目の発展を迎え，「為人民服務」の形で中国全土に広がり，知らない人のいないほど，中国語に根を下ろした。1970年代の末頃，鄧小平の「改革開放」の政策で，発展した第三次産業とともに，第三次産業の働きぶり，いわゆる「サービス」の意味を持っている「服務」は，新聞に載らない日がないほど，頻繁に使用され，三度目の発展を遂げた。現在，「服務」はHSKの甲級語彙に収録されるなど，日常生活の欠かせない常用語になっている。

ここまで，日本語借用語「服務」について調査して，中国語における流入と受容に関する事情を明らかにした。しかし，「服務」のような軍事分野の日本語借用語がまだ数多くある。例えば本論文に出た「動員」「命令」などである。中国語におけるこれらの軍事分野の日本語借用語の流入と受容はどのようなものであるか。この問題をこれからより深く考察する必要があると思う。

（こ　き・言語文学専攻）

参考文献

高名凱・劉正埮（1958）『現代漢語外来詞研究』文字改革出版者
王　立達（1958）「現代漢語中従日語借来的詞彙」『中国語文』2 月号
森岡健二（1969）『近代語の成立 明治期語彙編』明治書院
沈　国威（1994）『近代日中語彙交流史』笠間書院
荒川清秀（1997）『近代日中学術用語の形成と伝播 ── 地理学用語を中心に』 白帝社
朱　京偉（2003）『近代日中新語の創造と交流』 白帝社
劉　建雲（2005）『中国人の日本語学習史 ── 清末の東文学堂 ──』 学術出版会
信岡資生（2008）「明治期の兵語辞書について」『成城大學經濟研究』181 pp165-206
胡　　琪（2013）「「服務」という言葉の出現と発展 ── 日本資料を中心に」『国語国文学研究』第 142 号，pp.64-76.

参考資料

『五国対照兵語字書』1881　参謀本部
『新爾雅（1903）』1995　白帝社
『漢訳新法律詞典』1904　商務印書館
『学生字典』1915　商務印書館
『中華大字典』1915　中華書局
『国文成語辞典』1916　中國圖書公司
『国音普通字典』1921　中華書局
『辞海』1936　中華書局
『辞海』1979　上海辞書出版社
『辞源』1979　商務印書館
『漢語外来詞詞典』1984　上海辞書出版社
『漢語大詞典』1986-1993　漢語大辞典出版社
『辞海』1999　上海辞書出版社
『現代漢語詞典』2005　商務印書館出版
A Dictionary of the Chinese Language（1815-1823） 1996　ゆまに書房
An English and Chinese Vocabulary in Court Dialect（1844） 1995　ゆまに書房